

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600369
法人名	株式会社 むらかみ
事業所名	グループホーム やまと
所在地	愛媛県大洲市長浜町下須戒13番地8
自己評価作成日	平成28年9月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達職員一同は理念である「明るく、楽しく、穏やかに」を一人ひとりが心掛け、利用者様に家庭的な生活を送って頂けるよう努めています。それと同時に安全で安心な生活を送って頂けるよう、積極的に外部研修などの参加にてスキルアップに励んでいます。その他に管理者を始め、地域との繋がりにも力を入れており、地域の方々の協力を得ながら連携を保つことで地域行事の参加を増やせることが出来ています。そんな生活の中で一番大事な看取りについても力を入れており、主治医や利用者様、ご家族様との間を取り繋ぐことにより、苦痛や不安な看取りではなく、安心できるような看取りを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の誕生日には、それぞれの希望に沿った支援に取り組んでいる。「墓参り」の希望を支援した際には、姉妹のお宅も訪問でき、本人は、久しぶりに姉妹に会えて満足されたようだ。発語が少なくなり、コミュニケーションが取りにくくなった利用者については、家族来訪時に、職員が仲に入り、普段の様子や話した言葉を伝えたり、家族から本人の若い頃のことを聞く等して、家族との関係が続けられるよう支援している。家族会は年2回、行事と併せて行っており、家族同士で話すことで不安解消につながったような家族もある。一人ずつ浴槽のお湯を入れ替えて、気持ちよく入浴できるように支援している。またぎの不安のある方には、浴槽と同じ高さの座面回転式のシャワーチェアを使用して浴槽に入れるように支援している。午前10時～午後4時までが入浴の時間となっており、職員が声をかけながら支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやまと

(ユニット名) ぽかぽか広場

記入者(管理者)
氏名 松栄 優嘉利

評価完了日 H28 年 9 月 5 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「明るく、楽しく、穏やかに」の理念をフロアに掲示し、日々の関わりや地域の方との交流時にはその理念に添えるよう雰囲気作りや実践に繋げている。	
			(外部評価) 日頃は、理念共有の取り組みはあまり行っていないが、今回、自己評価に取り組む際、管理者は職員に、「理念を知っているか」「理念をどのように捉えているか」を確認して、利用者にゆったりと穏やかに過ごしてもらえよう、音、照明、配置等に気を付けるよう話をした。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事がある際には極力参加している為、散歩や行事に参加した時には声を掛けていただいたり、移動を手伝っていただく等良い関係が築けている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1度、事業所で催す「歌声喫茶」に、地域サロンの方の協力がある。又、地域サロンに参加して地域の方達と一緒に体操等を行っている。地域行事の参加時には、地域の方に車いすの移動の手助けをしてもらおうような場面もある。管理者は今後、地域交流を助けられるように、地域の会合にも出席していきたいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 歌声喫茶や地区の行事、運営推進会議などで利用者さんの状況報告や関わりを持つ事で認知症の方の支援方法などを伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事報告や利用者さんの状況報告を行っており、外出支援の提案や事業所に関する意見を頂いている。毎回ではないが意見があった際には速やかに改善するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の25日に開催している。家族には、今年度から、ユニットごとに1名ずつ代表者を決めて参加してもらっている。他グループホームの職員も参加しており、情報交換の場になっている。会議をスタッフルームで行うため、4月の会議時には、メンバーの方にホーム内を見学してもらっている。今後は、新たな地域メンバーを増やしたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的な運営推進会議の開催や市のグループホーム連絡会に参加し、取組みなどを伝え、意見交換などを行っている。また、その他でも連絡を取り合いいつでも協力していただける関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者からのアドバイスをもとに、運営推進会議時に、事故・ヒヤリハット報告を行っている。又、時には、介護計画の内容についてアドバイスがある。3ヶ月ごとの市主催のグループホーム連絡会に参加して、他事業所と勉強したり意見や情報交換を行ったりしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外部研修で基本的な知識を習得している。また、現場でも身体拘束になるのではないかと判断できない場合には、皆で話し合い検討し防止に努めている。新人スタッフに関しては理解しきれていないと感じている者もいる為、今後勉強する機会を設けようと考えている。</p> <p>(外部評価) ベッド柵の必要時には、「拘束にならないか」「どの位置に使用するか」等について、職員間で「自分だったらどうか」と考えながら検討している。ひとりで出かける利用者には、職員がそっと付き添い支援している。夜間、2名の利用者が同時時間帯に出かけて行ったようなことがあり、警察の方からのアドバイスもあって、現在、夜間のみ、玄関や窓に、ナンバー鍵をかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修で学んでおり、身体観察を行い怪我等がないか注意を払っている。声掛けや職員の対応についても、虐待にならないよう穏やかな気持ちで支援することを日々心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は外部研修で学んでいるが、十分な理解はできていない。全職員が正しい理解ができるよう外部研修の参加や職場内勉強会で学んでいこうと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には施設長・管理者で行い、納得された上で締結している。改定の際には書面と同時に直接説明を行い理解、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 主に主任やベテラン職員が定期的に聞き取りを行っているが、運営に関しての要望はあまりなく、意見箱を設置したが書かれた方はいない。要望等があれば、改善するよう努めたいと思っている。 (外部評価) 毎月ユニットごとに便りを発行しており、家族には、毎月の送付書類と同封している。家族来訪時には、利用者の歩行状態や暮らしの様子を見てもらいながら、普段の様子を報告している。家族会は年2回、行事と併せて行っており、家族同士で話すことで不安解消につながったような家族もある。お正月やお盆等、家族に外泊の有無を聞くようにしている。	家族が知りたい情報を提供できるように、家族の立場に立って取り組みの工夫を重ねてほしい。又、運営推進会議の内容や事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例等についても報告を工夫してはどうだろうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにて意見を述べる機会を設けている。カンファレンス以外でも職員から出た意見等は主任や管理者から代表者に伝え反映している。 (外部評価) 昨年末から外部研修受講は勤務扱いとなり、職員は、興味のある研修を受講したり、管理者から個別に声をかけて受講を促したりして、職員個々が勉強する機会を持てるよう取り組んでいる。管理者は、職員の表情をみて声をかけ、悩みの相談に乗ることもある。状態によっては、少し休暇を取ってリフレッシュしてもらうようなこともある。子どもを連れて出勤する職員があり、利用者の発語や活動量、笑顔が増えるという効果が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 働きやすい職場となるよう職員の意見を反映し、就労内容や賃金のベースアップを明確にするよう改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々の能力を把握した上で研修の参加を促したり、日常的にも主任をメインにケアの質が向上できるよう個別指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修や施設見学、市内のグループホーム連絡会などの情報交換ができる場に参加する機会を設けサービスの向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時はアセスメント等で情報を把握している。入居後は関わりを多く持ち、不安等を解消できるよう努めている。また、全職員が共有できるようにカンファレンスで情報交換を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の段階では、主に管理者とケアマネで家族のニーズを聞き取り把握に努めている。その他の職員も面会時や連絡があった際には要望を聞くよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント、在宅時のケアマネからの情報提供を元にケアカンファレンスを開き、職員同士の情報共有にて柔軟に対応できている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で役割を持っていただく事で共に支え合う関係を築けている。また若年層の職員が多い為、生活の知恵など教えて頂くことがとても多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、必要な方には職員が仲介しながら家族との時間を作ったり、事情により面会に来れない家族については手紙や写真にて近況を報告し、頂いた返事を本人に伝えることで関係が途切えないようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出にて親戚や兄弟に会いに行くことを支援した。また、本人が住んでいた地域行事に参加し懐かしみを感じて頂いたり、知人に会ったり関係が途切れないよう努めている。全員ではないので、今後はひとりひとりに支援できるように努めていきたい。 (外部評価) 誕生日には、それぞれの希望に沿った支援に取り組んでいる。「墓参り」の希望を支援した際には、姉妹のお宅も訪問でき、本人は、久しぶりに姉妹に会えて満足されたようだ。発語が少なくなり、コミュニケーションが取りにくくなった利用者については、家族来訪時に、職員が仲に入り、普段の様子や話した言葉を伝えたり、家族から本人の若い頃のことを聞く等して、家族との関係が続けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の関係性を把握し席順を変更している。仲介などで孤立することがないように努め、良好な関係作りが維持できるような気を付けている。また、テーブルやソファの配置にも、その時の状況に応じ模様替えを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も連絡を取り経過の把握に努め、相談があれば対応している。また、その他の職員も面会に行くなどし関係が断ち切らないようにしている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、その日の希望などについて話しを聞くようにしている。あまり主張されない方や会話が困難な方は表情や行動などで思いを汲み取りケアカンファレンスで検討している。 (外部評価) 行きたいところがあるが、遠慮がみられるような利用者には、「前に〇〇に行きたいと言っていましたね」と職員から話題にして出かけられるよう促して支援している。利用者の以前の職業や得意なことを把握して、生活の中で行えるように支援している。「娘の近くに住みたい」と希望する利用者には、まず、持病が悪化しないように運動したり食事の調整等ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントで過去の生活歴について把握に努めている。情報が不十分な場合はケアマネを通し、以前の担当ケアマネや家族から聞き取り職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムの把握は概ねできている。日々の心身状態は顔色やバイタル、会話や記録などから変化を把握できるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃から本人、家族の意向の把握に努めカンファレンスの際には職員で話し合い、必要時には主治医に相談するなどし現状に合った介護計画になるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させている。6ヶ月に1度アセスメントを行っており、前回から変更部分があれば赤字にして変化を分かりやすくしている。日々の記録は、利用者の言葉や様子を記録して、意向を計画に採り入れることもある。利用者の担当職員がモニタリングを行い、ケアカンファレンスで他職員の意見を聞き、計画を見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録、活動表で個別に記録しており、それを元にカンファレンスを行い情報共有や介護計画の見直しをしている。また、その他にも「送り帳」を使用しスムーズな情報の共有が行えるよう工夫している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>多機能化についてはまだまだ行えていない事もあると思うが、その時々生まれるニーズに対しては契約事項に捉われず、柔軟な対応を心掛けている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域行事、ボランティアの活用をすることなどで利用者さんの力の発揮や安全で豊かな暮らしができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 契約時に本人、家族の意向であるかかかりつけ医の確認を取り、希望に添った対応を行うことで適切な医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居時には、家族に病院受診をお願いしているが、家族の事情や都合もあり、現在は、利用者の半数の方は、事業所で通院介助を行っている。以前からのかかりつけ医が往診に来てくれるケースもある。家族が受診に付き添う際には、利用者の日々の様子を職員が口頭で伝えている。受診内容については、家族から聞き取ったり、検査内容は、病院に直接聞いている。又、必要時には職員も受診に同行して説明を受けている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 事業所には看護師がいない為、協力医である大久保内科の看護師に相談したり、往診や受診前には生活状況や身体状況を伝え適切な治療を受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) ケアマネを通し入院時の調整など細かく医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアワーカーに連絡を密に取り合い入院や退院時も病院に出向き状況把握に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時には重度化や終末期支援について説明を行い、意向の聞き取りを行っている。状態が変化した際にはその都度、説明を行い、再度意向の確認をしている。また、職員にも終末期支援について話し合いをし、適切な支援ができるよう個人ファイルや緊急時ファイルに家族意向を記載している。</p> <p>(外部評価) 入居時に、重度化した場合や看取り時の支援について、家族の希望を聞き取っている。利用者の思いを家族が話してくれることもある。状態変化時には、主治医より病状の説明があり、その際に、再度家族の希望を確認している。調査訪問時には、食事の進まない利用者には好物の果物をすすめていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 外部研修、年2回の消防署立ち合いでの避難訓練を実施し、通報訓練や心肺蘇生法などについて学んでいるが、いざという時に全職員が適確な方法で実施できるよう訓練の頻度を増やしたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時には地域住民に協力して頂けるよう、事前に依頼し事業所内での避難訓練にも参加していただいている。玄関までの避難訓練は定期的に行っているが、実用性に欠ける部分もあると思うので今後の課題と考えている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。火災や地震を想定して、日中、夜間の両方を経験できるよう取り組んでいる。2階から滑り台で避難する訓練を職員・利用者ともに体験し、課題点を明らかにしていた。民生委員にも参加協力を得ており、避難した利用者の見守りを願った。地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加している。	利用者の状態や窓をロックしている状態も踏まえて、避難経路について話し合い、避難訓練を重ねていってほしい。又、いざという時には近所の方が協力してくれるようになっているが、協力をスムーズに行ってもらえるように、事業所や利用者を知ってもらうような取り組みをすすめてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人格を尊重した言葉遣いには十分に気を付け、内容によっては周囲に聞こえないよう小声で話したり、居室で話したりしている。	
			(外部評価) 管理者は、「命令口調にならないように」「過剰介護はしないように」と職員に話をしている。又、「利用者を支援するときには、自分の家族だったらどうするかと思いながら支援するように」と話している。異性が苦手な方には、同性介助で支援している。目の不自由な利用者には、いきなり声をかけないことに気を付けており、外出時には景色等を詳しく伝え、楽しめるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ささいな事でも自己決定ができるよう、選択肢を与えるよう心掛けている。重度者で伝達が困難な方に関しては表情や仕草から汲み取るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースは出来る限り尊重し、その日何をしたいか聞きながら生活して頂いている。体調が悪い方に関しては思い通りに過ごして頂けないこともあるが可能な範囲で希望に添えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) それぞれの思うおしゃれができるよう見守り、必要に応じて整容介助させていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立が決まっていない日は利用者さんと共にメニューを考えたりしている。食材切りや片付けは日課として一緒に行っており、味に関する感想や作業して頂いたお礼を伝えることで喜びを感じていただいている。	
			(外部評価) 週5回、業者から献立に沿った食材が届き調理している。週2回は、利用者の希望を採り入れ献立を立て食事を作っている。朝食は、利用者の希望に沿って、パン食にすることもある。きざみやとろみを付けて配膳する場合は、主食おかずをそれぞれの器に別けて盛り付け、声掛けしながら介助をしている。外食に出かけるときには、トロミ剤や、キッチンバサミを持参している。店の許可を得て、ミキサーを持参することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリー計算された献立を元に食事の提供を行っているが、体調や季節に応じ摂取量を検討し変更している。十分に確保できない場合には夕方の申し送りで伝え、夜間で補えるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) それぞれの口腔状態に応じケアしている。朝晩2回声掛けや介助にて行っているが、その他の時間でも本人のタイミングで行うこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄間隔などの把握に努め、失敗が減るようトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄が習慣になった方はリハビリパンツから下着に変更するなどしている。	
			(外部評価) トイレは、両サイドに手すり、前面には跳ね上げ式の前板を設置し、前傾姿勢が取りやすいようにしている。排泄の間隔が長くなっている利用者には、声をかけて促している。又、身ぶり手ぶりで確認したり、少し場所を移動してもらってから声かけする等、工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因を探り、水分や活動量を増やしている。改善されない方については医師に相談し内服薬にて定期的な排便が確認できるよう管理している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 安全確保の為ある程度の時間指定はしているが、曜日は決めていない。清潔保持の為、2~3日に1回は入れるように声かけしており、その他でも希望があれば体調を見て入って頂いている。入浴剤を使用した際には「家でも使っていた」と喜ばれていた。	
			(外部評価) 一人ずつ浴槽のお湯を入れ替えて、気持ちよく入浴できるように支援している。またぎの不安のある方には、浴槽と同じ高さの座面回転式のシャワーチェアを使用して浴槽に入れるように支援している。午前10時~午後4時までが入浴の時間となっており、職員が声をかけながら支援している。長風呂を好む方には体への負担を考慮して、砂時計を使って本人が納得のいくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状態に応じ和室を使用するなどし休息を促している。夜間は定期的な巡視と温度調整、会話での安心確保に努め、十分に休めるよう配慮している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルにてどんな薬を飲んでいるのか把握に努めている。変更などがあった際には効能や副作用を確認し、服用後の体調変化に注視している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を把握した上で書き物や家事作業など、それぞれに合った役割を持って頂き、毎日懸命に取り組まれている。たまにはお休みの日を作り、外出やレクなどで気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 役割と兼ね、散歩がてらに段ボールを捨てに出かけたり、購入品や米つきに行く時は必ず声を掛け誘い出している。面会時には家族の協力を得てドライブに行かれることもある。	
			(外部評価) 数名で散歩できるように支援している。時には、散歩途中に小学校のベンチでひと休みしたり、神社にお参りしたりしている。外出を好まない利用者には、誘い方を工夫している。1階ユニットは、利用者と芋炊きを手作りして、近くの公園で食事したことがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金を所持している方は一人しかいない。買い物や散髪に行かれた時には自分で支払われている。その他の方については、会計時のみお金を渡し支払っていただいたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 普段会えない家族から贈り物があった際には電話を掛け、お礼を伝えたりしている。知人からハガキが届いた際には本人が書けなかった為、代筆し返事を送った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その時の状況に応じテレビの音量を調整したり、カレンダーでは日付けが確認しづらい方の為に、日捲りカレンダーを作るなどの工夫を行っている。温度もこまめにチェックしエアコンや外気などで調整している。掲示物については季節感のある物を装飾できていないことが多い為、今後の課題としている。	
			(外部評価) 2階ユニットでは、季節の花を紙で作って飾っている。職員が居間の掃除をしていると利用者が「手伝おうか」と声を掛けてくれることがあり、掃除機をかけたり、モップかけ等、できることをお願いして一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングと奥のフロアーにソファを置き、好きな時に好きな場所で気の合う方とゆったり過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の段階で馴染みの物や家具を持ち込んでいただくようにしている。配置に関しては、本人と相談しながら使い勝手の良い場所を決めている。新しく購入する場合には本人の要望をしっかりと聞き家族とも相談した上で購入している。	
			(外部評価) 家族の来訪時に撮った写真を飾っている。夜間使用するポータブルトイレは、日中は別の場所に保管している。気管の弱い方は、加湿清浄機を使用している。夏には窓にすだれをかけている。各個室に温・湿度計を設置している。1階ユニットには、押入れが無い為、家族が季節に合わせて衣替えをしている。居室の掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具の配置など、利用者さんが戸惑うことなく生活できるよう調整したり、「便所」や居室のネームプレートは見やすい高さに貼るなど工夫している。	
			(外部評価)	